

No.	実施大学	授業科目名	担当教員	単位数	開講区分	曜日	予定回数	時間	実施場所	定員
12	東京工科大学	メディア特別講義Ⅱ (ACPC 提携講座)	佐々木 和郎 メディア学部 教授	2	後期	火	14	13:15～14:55	東京工科大学 八王子キャンパス	若干名

【到達目標】

「創作する・表現する・伝える」。こうしたアクティブな仕事について知りたいというモチベーションを持って「ライブ・エンタテインメント論」を受講し、これからの音楽業界や、ライブ・エンタテインメントの時代を生き抜く力を身につけます。
ラーニングアウトカム:音楽ビジネスの仕組みを理解し、音楽制作の実学的な理論を知る。実学に基づく専門能力とコミュニケーション能力を身につけます。また、音楽業界やライブコンサート業界における実践的な知識を学びます。

【授業の概要】

現在は音楽業界全体が大きく変化する時代です。音楽産業全体の展開において「ライブ・エンタテインメント」は、新しい市場開拓の中心として、その存在感を非常に強めています。ローリング・ストーンズやマドンナの例に見るように、世界中のアーティストが「CD 販売による展開」から「ライブを中心とした 360 度ビジネス」へと転換を進めています。これは「より直接的な体験としての音楽を求める」観客側のニーズの現れでもあります。
こうした時代状況を受けて本講義では「ライブ・エンタテインメント」に関連するさまざまなテーマを通じて、音楽産業全体のありかたを論じ、新しい時代を築くために必要な情報と知識を解説します。授業は、音楽業界ライブ業界での実務経験者をゲスト講師として迎え、現代におけるトピックを解説する実践的科目です。

【授業内容】

第 1 回:オリエンテーション / ライブ・エンタテインメント論を受講する皆さんへ	第 8 回:海外ビジネスへのチャレンジ (日本コンテンツの海外進出)
第 2 回:誰にでも分かる音の楽しみ方 (音響工学)	第 9 回:マネージメントの未来 (プロダクション経営展開)
第 3 回:J ポップからロックまで / デジタル時代の音楽	第 10 回:今日的ライブ運営 (ライブ事業展開)
第 4 回:都市における総合型エンタテインメント (ライブ事業)	第 11 回:コンテンツ産業の将来を考える (経済産業省の政策方針)
第 5 回:音楽の創造 / アーティストの立場から(音楽制作)	第 12 回:ライブ・エンタテインメント新世紀 (音楽業界の再生と経済発展)
第 6 回:生活の中のエンタテインメント (劇場経営と芸術の創造)	第 13 回:音楽プロデューサーとは / クリエイティブ・マインドの育て方
第 7 回:テレビ放送とライブ・エンタテインメント(映像配信)	第 14 回:日本のコンテンツ政策 / 世界におけるジャパンコンテンツ

【成績評価方法】

期末試験は行いません。成績判定については、授業態度を平常点として、レポート評価点との両面から行います。小レポート(講師への質問など)も追加の評価対象になります。授業時間中の積極的な質問や、感想の提出も重要です。
通常レポート:60 ポイント/質問や小レポート:40 ポイント
(100 点満点で、70 点以上であること)

【教科書】

教科書の指定はありません、各自「参考書」などを通じて予習して下さい。

【参考書、教材等】

「ライブ・エンタテインメント新世紀」北谷賢司(ぴあ総研)
「ライブ・エンタテインメントの著作権」福井 健策 / 二関 辰郎(社団法人著作権情報センター)

【履修上の注意】

音楽業界の各ジャンルより、第一線のゲスト講師にお出でいただきます。他では聞くことの出来ない貴重な講義ですので、出来れば全回出席を目指して下さい。Web 出席システムによる出席データをとります。

【準備学習】

自分の好きな音楽ジャンルについて、そのビジネス形態(CD 販売、コンサート運営、ネット・コンテンツの展開、広告展開)などの状況を調べてみよう。音楽ビジネスにかかわる、法制度や著作権の問題などについて、自分なりに調べ、自分自身の問題意識を持って、講義に臨んで下さい。

【リンク先ホームページアドレス】

http://www.starman.biz/tut_media/lectures18/live18/

※ この授業は、9/29(火)が初回です。